

講義名	キャリア基礎論			授業形態	
担当教員	中山 一郎	開講期・曜日・時限	後期 金曜日 5 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

受講生は変化する日本の労働市場において、多様化する大学生の進路について学ぶ。その多様化する進路を自ら選択できるように、実社会の事例を取り上げることで将来をイメージしていく。就職だけでなく人生全体を考え、自らの夢に向かうために、社会の現実と自己を照らし合わせて自分の目標を明確にし、新たな自分を創り上げていくことを目的とする。

到達目標

- 日本の労働市場を知ること大学生の就職環境について説明することができるようになる。
- 業界や職種などの違い、働き方（ワークスタイル）を理解し、自分の希望する仕事の絞り込みができるようになる。
- 社会が求める人材や能力を知ること将来のキャリアに向けて学生時代の目標設定ができ、その達成までのロードマップを策定し、充実した学生生活を過ごすことができるようになる。

提出課題

毎回授業後に「リアクションペーパー」を提出してもらいます。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

「リアクションペーパー」を提出をした翌回の授業冒頭において、必要かつ可能な範囲でフィードバックを行います。

評価の基準

リアクションペーパー（75%）
基礎能力テスト/SPI 適性検査（10%）
平常点（15%）
15回の授業のうち3分の1以上（5回以上）の欠席者については成績不可とします。
を総合的に評価します。

履修にあたっての注意・助言他

リアクションペーパーの「提出方法」や「提出期限」については厳守のこと（ルール以外の受付は一切しません）。

教科書

.エピソードの就活 - キャリアカウンセラーが教える7つのステップ - 中山一郎 晃洋書房 1,900円(税別) 978-4-7710-2829-6

参考図書

その他

プリント資料及び参考文献に関しては、使用する際に適宜配布、紹介します。

授業計画

- 1 プロローグ-キャリア基礎論とは-
- 2 大学での学びとキャリア形成
- 3 2年生から知っておきたい就職活動
- 4 就職ってなに、会社ってなに?
- 5 「出会い」を「出逢い」に変えるコミュニケーション術
- 6 働き方研究 - 人生一発、厚かましく謙虚に
- 7 働き方研究 - 機能のサービスと情緒的サービス-
- 8 働き方研究 - 社会人1年目の現場-
- 9 仕事研究 - 営業という仕事-
- 10 仕事研究 - 販売という仕事-
- 11 仕事研究 - 企画という仕事-
- 12 社会で求められる基礎能力 - SPI 適性検査対策 -
- 13 社会で求められる基礎能力 - SPI 適性検査対策 -
- 14 資格と就職について考える
- 15 エピローグ-改めて、キャリア基礎論とは-

履修人数や受講生の期待や特性に応じて、授業内容が変更されることもあります

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

1. 授業に関連する本や新聞記事や雑誌を読んだり、ニュースをチェックしたりする習慣を日常的に付け、特にキャリア・就職・労働・雇用・ビジネスなどといったキーワードには注目するようにしておく（毎日1時間）
2. 授業のなかで紹介したり、示した参考図書や参考資料などを読んだり、目を通してをしておく（毎日30分）
3. 授業で学んだことの復習や実践（毎日30分）
4. 基礎能力試験（SPI適性検査）対策（毎日2時間）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

当該科目は主題と概要でもすでに記載しているが、多様化する進路を自ら選択できるように、実社会の事例を取り上げることで将来をイメージしていくことを主眼とした授業であり、「働く目的と仕事観の醸成、自身の個性と適職探し、職種と業種の特性分析等を体系的に行う」というキャリア科目のびとも合致していると考えます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

質問やアンケートを「レスポ」で回答してもらうことがあります。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり
具体的な事例やケーススタディーを紹介します。

備考

この科目は、「対面型」で実施します。到達目標の達成のためには、授業形態や扱う教材等の関係上、対面型での授業が望ましいためです。「オンデマンド型」ではありませんので、時間割通りの時間帯に指定された教室で授業に参加してください。なお、新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が困難と禁止となった学生には、別途個別に相談しながら対応していきます。